

ESG(CSR)

CSRに対する基本的な考え方

シャープは、創業以来の精神として「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「全ての協力者との相互繁栄を期す」の経営理念のもと、社会やステークホルダーからの期待に応え、当社と社会の相互の持続的発展を目指すことをCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)に対する基本的な考え方としています。

この経営理念・経営信条^{※1}を具体化するため

に、グループ企業の行動原則として「シャープグループ企業行動憲章」を、全ての役員・従業員の行動の規範として「シャープ行動規範」^{※2}を定めています。

※1 経営理念・経営信条は、下記でご覧いただけます。
<https://corporate.jp.sharp/info/philosophy/>
 ※2 シャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範の詳細は、下記でご覧いただけます。
<https://corporate.jp.sharp/info/charter/>

サステナビリティに関する方針・ビジョン及び戦略

2016年8月に、社会や環境に与える負荷を低減していくために特に重要と考える取り組みテーマを「SER(Social and Environmental Responsibility:社会環境責任)」と定義し、SER方針を定めました。

また、2015年9月に国連で採択されたSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の達成へ貢献することを2018年度より中長期ビジョンに据え、取り組みを進めています。

SER方針

- ① 従業員の権利を重視し、従業員の健康及び安全を確保する。
- ② 事業活動及び製造過程における環境責任を果たす。
- ③ 国際標準、法規制、顧客の要求に基づいたSERマネジメントシステムの構築を行い、運用する。



CSRマネジメント推進体制

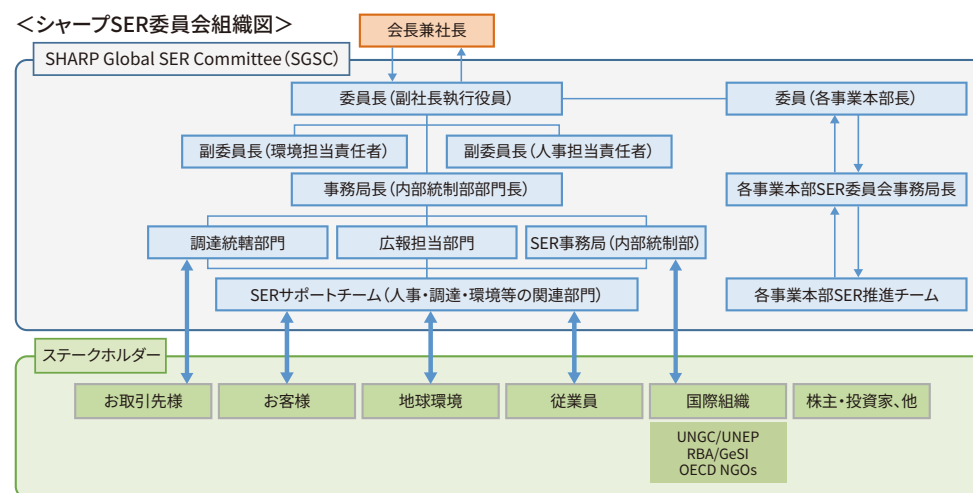
シャープは、「SER方針」を実行施策レベルに落とし込み、PDCAサイクルでマネジメントしていくために、2016年にシャープSER委員会(SHARP Global SER Committee)を発足して運営しています。

シャープSER委員会の会議体である「SER会議」を開催し、シャープグループのSERに関する方針やビジョンの徹底、重要施策についての審議、各カンパニー・事業本部のSDGs達成を目指した

事業活動やSER施策の進捗状況の確認を実施しています。

各カンパニー・事業本部では、各カンパニー社長・事業本部長の指揮のもと、SER推進チームを組織し、SDGs達成に貢献する事業を推進するとともに、事業と密接に関連する重要なSER施策を選定の上、社会課題の解決に取り組んでいます。

<シャープSER委員会組織図>

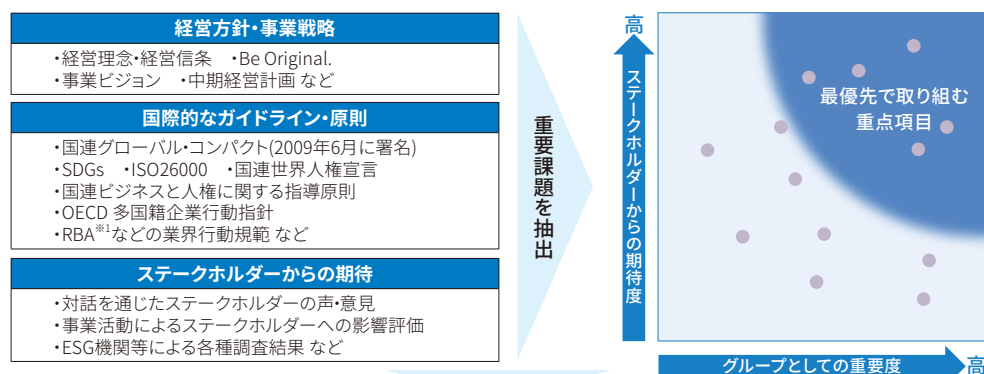


2019年3月現在

マテリアリティ(重要課題)の特定とモニタリング

グローバルな社会課題解決に向けた目標達成への貢献を目指し、中長期的な視点からシャープグループにとっての「マテリアリティ(重要課題)」を特定し取り組みを行っています。マテリアリティの特定に当たっては、抽出した重要課題を「社会

にとっての重要度(ステークホルダーからの期待度)」と「グループとしての重要度」という2軸の観点でマッピングし、最優先に取り組む課題を特定しました。



イノベーションによる社会的課題の解決	事業活動に伴う社会・環境への負荷軽減
8K+5Gエコシステムの構築 超高精細映像である8Kを活用し、医療・セキュリティ・検査システム・インフラ保守などの分野でソリューションを提供 人に寄り添うAIoTの拡大 AI(人工知能)とIoT(モノのインターネット)に対応した機器を様々なシーンに広げ、安全・便利・快適なスマートライフを提供 ICTの活用 コンピューティングを活用し、工場における遠隔支援システム、会議ソリューション、教育ソリューションを提供	人権・労働 ・従業員の健康・安全の確保 ・ハラスメントの防止 ・人権の尊重 環境 長期環境ビジョン ^{※2} “SHARP Eco Vision 2050”に向けた取り組み ・気候変動(脱炭素社会の実現) ・資源循環(循環型社会の実現) ・安全・安心(化学物質の徹底管理) サプライチェーンマネジメント ・サプライチェーン全体でのESGリスクマネジメント ・責任ある鉱物調達
ガバナンスの強化 コーポレートガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンス・情報セキュリティなど	

※1 Responsible Business Alliance. 責任ある企業同盟の略称。旧称EICC(Electronic Industry Citizenship Coalition)。
 2004年にHPやIBM、DELLなどの電子機器の企業によって設立された。電子機器に留まらず幅広い業界のサプライチェーンにおける社会・環境・倫理的課題に対する規範を作成。
 ※2 P.12をご参照ください。

イノベーションによる社会的課題の解決として、中期経営計画で掲げる財務指標を活用した進捗状況のモニタリングに加え、各カンパニー・事業本部で事業を通じてSDGs達成に貢献するための中長期ビジョンを設定し、その進捗状況をSER会議にて報告・確認しています。

また、各カンパニー・事業本部において、全社

SER重点施策指針より、それぞれの事業本部にとって重要なものを選択して「SER施策」を推進し自己評価を行っています。

ガバナンスの強化については、各テーマに関する全社会議において取り組み状況を確認しているほか、その主管部門にて年次目標を定めて推進しています。

<2018年度全社SER重点施策指針(抜粋)>

SER施策	対象範囲	貢献するSDGs
健康障害につながる長時間労働の抑制	日本国内全社員	3, 8, 10
ハラスメントの防止	日本国内全社員	5, 8, 10
海外拠点における人権尊重の推進	海外拠点の全社員	8, 10, 16
紛争鉱物に関する日本国内・海外の関連法規制への適合と効率的な対応	該当事業本部	16
国際的なSER基準(RBA行動規範)に基づく自社工場SERパフォーマンス調査・監査の実施	日本国内全生産工場 連結対象生産子会社	1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16
サプライヤーSER管理体制の再構築	お取引先様	1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16
廃棄物の排出抑制・再資源化	全生産工場	6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13
事業に伴う温室効果ガス排出抑制(エネルギー使用効率の向上)	全生産工場	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13
製品使用に伴う温室効果ガス排出抑制(製品の省エネ化推進)	商品系事業本部	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13

ESGインデックスの状況

2019年7月現在、シャープは以下のインデックスに採用されています。

- FTSE4Good Developed Index
- FTSE Blossom Japan Index
- MSCI ESG Leaders Indexes
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes

2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数